

神奈川県愛甲郡清川村に保存されている ニホンオオカミの前肢

小 原 巖

Iwao OBARA: A Fore Paw of Japanese Wolf, *Canis hodophilax*,
Preserved in Kiyokawa-mura, Kanagawa Prefecture

この度、神奈川県丹沢地方の民家に保存されているニホンオオカミ *Canis hodophilax* TEMMINCK, 1839のものと思われるミイラ化した前肢を調べる機会を得た。同様にミイラ化したニホンオオカミの後足部が青森県の寺院に保存されていることは既に知られている(吉行, 1989)が、前肢の遺物はこれまで知られておらず、貴重な資料となるのでここに報告する。

この報告に当たり、所蔵品の調査を快諾された山田八伍郎氏ならびに日頃調査にご協力いただいている柏木喜重郎氏に対して感謝の意を表する。

資料の概略と同定

所在：神奈川県愛甲郡清川村煤が谷2553番地、山田八伍郎氏所蔵。

来歴：捕獲地および捕獲年代についての記録は残っていないが、魔除けあるいは呪いの品として古くから山田家に伝わるものである。同家は天保年間(1830-1844)から続くとのことであるから、この遺物もおそらく、江戸時代末期か明治時代初期に付近の丹沢山中で捕獲されたものであろう。

特徴(図1)：手根部から切断された左前肢肢端部。肉部の付いたミイラ化した乾燥品で、橈側手根骨と尺側手根骨から爪先までの部分。毛はほとんど認められないが、パッドは、指球及び掌球ともに、ほぼ完全に形態を留めている。第1指には中手骨が残っているが、その先の指骨は欠損している。

計測値(mm)：全長(爪を除く)140.5、指球最大幅43.8、指球前縁から掌球前縁36.6、指球前縁から掌球後縁68.5、掌球長32.6、掌球幅36.2。

同定：この資料の全長(爪を除く)は140.2mm。国立科学博物館所蔵のニホンオオカミ NSMT-M100(福島県産雄)の指骨先端(爪を除く)から橈側手根骨近位端は140mmで両者の大きさはほぼ等しい。

今泉吉典氏は「(オオカミの)前後の指骨は長く、殊に第3、第4指が比較的長い。そのため足跡は、イスでは円形に近いがオオカミでは長楕円形である」と述べている(小原, 1969)。今泉他(1983)も、イスとオオカミの足跡の形は異なり識別できると述べている。また、平岩(1981)も「足跡が狼では長さ5に対して幅3.5で細長く、イスでは長さ5に対して幅が4で幅が広い」と述べている。

今回調査した資料の手掌部を粘土板上に圧して型を取ったところ、長さ(爪を除く)58.0mm、幅35.0mmで、長さを5とすると、幅は3となった(図2)。乾燥品による型と自然の足跡を一概に比較できないが、平岩(1981)によって示されたオオカミの比率よりもさらに細長い。*familiaris*, *lupus* および *hodophilax* などの手掌部および指の長さについては今後検討を要するところであるが、*familiaris* の1例シバイヌ♀2歳(図3)と比較すると、本資料は明らかに手掌部と指のなす形が細長い。このような点で、この資料はニホンオオカミ *Canis hodophilax* TEMMINCK, 1839のものと思われる。

文 献

平岩米吉, 1981. 狼—その生態と歴史—, 動物文学会, 東京.

今泉吉典・大石 勇・正田陽一・塩屋賢一, 1983.

このふしぎな動物—イヌ—. 教育社, 東京.

小原秀雄, 1969. 日本野生動物記(3)オオカミその2. 自然, 24(12): 80-86.

吉行瑞子, 1989. ニホンオオカミを鑑定する／後足の遺物から. どうぶつと動物園, 41: 362.

(国立科学博物館教育部)



図1 ミイラ化したニホンオオカミの左前肢
A 上面, B 下面, C 外側面, D内側面

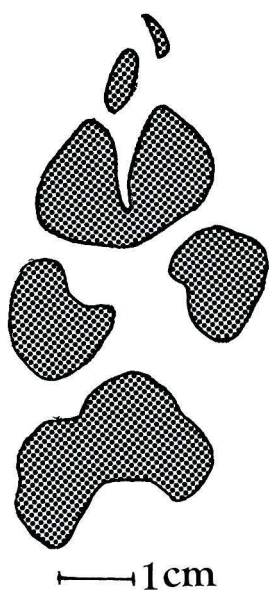


図2 ニホンオオカミのミイラ化した前肢によってできた足型



図3 イヌ（シバイヌ♀2歳）の左前肢